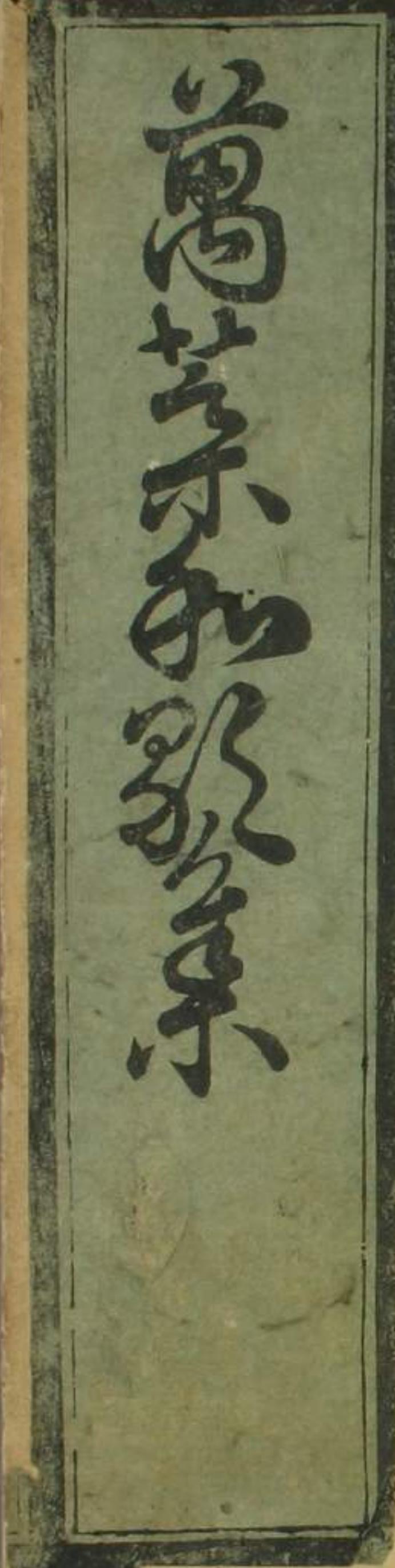


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

特別  
14  
7465  
9

卷九



萬葉集卷第九



○雜謌

泊瀨朝倉宮御宇天皇御製歌一首

○尚本宮御宇天皇幸紀伊國時歌二首

○大寶元年辛丑冬十月幸紀伊國時歌十三

首

○後人歌三首

細字  
○獻忍壁皇子歌一首 詠仙人形

○獻忍壁皇子歌一首

○獻舍人皇子歌二首

○泉河邊間人宿禰作歌二首

○鶯坂作歌一首

○名木河作歌二首

○高島作歌二首

○紀伊國作歌二首

○鶯坂作歌一首

○泉河作歌一首

○名木河作歌三首

○宇治河作歌二首

○獻弓削皇子歌三首

○獻舍人皇子歌二首

○鶯路鳥坂作歌一首

○泉河邊作歌一首

○獻弓削皇子歌一首

柿本朝臣人麻呂歌集謡二首

○登筑波山詠月一首

幸芳野離宮時歌二首

槐本歌一首

山上歌一首

春日歌一首

高市歌一首

春日藏歌一首

元仁歌三首

絹歌一首

島足歌一首

麿歌一首

丹比真人歌一首

和歌一首

石川卿歌一首

宇合卿歌三首

麻呂

○墓師歌二首キノイシナガ

○小辨歌一首

○伊保曆歌一首

○式部大倭歌一首

○兵部川原歌一首

○詠上総末珠名娘子一首

○詠水江浦島子一首并短歌

性

○詠上総末珠名娘子一首并短歌

○見河内大橋獨去娘子歌一首并短歌

○見武藏少崎沼鴨作歌一首

○那賀郡曝井歌一首

○手網濱歌一首

○春三月諸卿大夫等下難波時歌二首并短

歌

○難波經宿明日還來時歌一首并短歌

○檢稅使大伴卿登筑波山時歌一首并短歌

○詠霍公鳥謡一首

○登筑波山歌一首 并短歌

○登筑波嶺爲燿歌會日作歌一首 并短歌

○詠鳴瓈歌一首 并短歌

○沙彌女王歌一首

○七夕歌一首 并短歌

相聞

○振田向宿禰退筑紫國時歌一首

○拔氣大首任筑紫時娶豐前國娘子紉兒作紐作

歌三首

○大神大夫任長門守時集三輪河邊宴歌二首

○大神大夫任筑紫國時阿倍大夫作歌一首  
○獻弓削里字歌一首

○獻舍人皇子歌二首

○石河大夫遷任上京時播磨娘子贈歌二首

○藤井連遷任上京時娘子贈歌一首

藤井連和歌一首

鹿島郡苅野橋別大伴卿歌一首并短歌

與妻歌一首

妻和歌一首

贈入唐使歌一首

神龜五年戊辰秋八月歌一首并短歌

天平元年己巳冬十二月歌一首并短歌

天平五年癸酉遣唐使船發難波入海之時親

母贈子歌一首并短歌

思娘子作歌一首并短歌

挽歌

宇治若郎子宮所歌一首

紀伊國作歌四首

過足柄坂見死人作歌一首并短歌

過葦屋處女墓時作歌一首并短歌

哀弟死去作歌一首并短歌

詠勝鹿真間娘子哥一首，并短歌  
見菟原慶女墓歌一首，并短歌

萬葉集卷第九

本

雄畧天皇△雜歌

泊瀨朝倉宮御宇大泊瀨幼天皇御製歌

一首

此卷辛丁裏作小鞞

暮去者小椋山爾卧鹿之今夜者不鳴寐家良  
霜シモ

梅

右或本云。嵐本天皇御製不審正指因以累  
舒明

載

嵐本宮御宇天皇幸紀伊國時歌二首

萬葉集卷九

七

嵐

岡

翌

本

神武云城國乙訓郡小倉神社接是同名異地也此小椋蓋在大和乎

爲妹吾玉拾奧邊有玉緣持來奧津白浪  
朝霧爾沾爾之衣不干而一哉君之山道將越

右二首作者未詳

本持統

本文武

大寶元年辛丑冬十月太上天皇大行天皇幸

紀伊國時歌十三首

爲妹我玉求於伎邊有白玉依來於岐都白浪

右一首上見既畢但歌辭小換年代相違

因以累載

伎

御尺梅白崎在  
何地乎無所考  
然而幸崎於  
紀伊之時貳賦  
則在紀伊無疑  
契云紀伊有白  
良瀨君此欲  
御尺又梅白崎  
在近江乎何則  
三名部蓋近  
江地也天智帝  
皇女以此地為  
名曰御名部  
女又梅序言幸  
紀伊則須紀伊

白崎者幸在待大船爾真梶繁貫又將顧  
三名部乃浦鹽莫滿鹿島在釣爲海人乎見變  
來六

朝開榜出而我者湯羅前釣爲海人乎見變將  
湯羅乃前鹽乾爾祁良志白神之磯浦箕乎敢  
神石或云國津名郡由良瀨神社依此文則由良瀨紀伊中近江  
路之地

而榜動  
黑牛方鹽十乃浦乎紅玉裙須蘇延往者誰妻  
紀伊碑ノ名  
喘意

風莫乃濱之白浪徒於斯依久流見人無

諸說紀伊

云於斯依來藻

モニクモ

一云於斯依來藻

歌鼎

右一首山上臣憶良類聚林曰長忠寸意

吉麻呂應詔作此歌

オカノイニキ

我背兒我使將來輒跡出立之此松原乎今日

我也侍心ヲ兼

香過南

オカノイニキ

藤白之三坂乎越跡白杼之我衣手者所沾香

裳

桑語

勢能山爾黃葉常敷神岳之山黃葉者今日散

大和城上郡

鑑

ラ紀伊

山跡庭聞往歟大我野之竹葉莉敷廬爲有跡

大和

者

留

木國之昔弓雄之響矢用鹿取麋坂上爾曾安

謂射殺也優意

留

又頗辨

城國爾不止將往來妻社妻依來西尼妻常言

ナガラ

長柄一云嬬賜爾毛嬬云長柄良

ナガラ

ツマタマフニモツマトイヒナガラ

右一首或云坂上忌寸人長作。

後人歌二首

朝裳吉木方徃君我信土山越澪今日曾雨莫

零根

オクレ井

ト

ワガコヒヲレバ

シラクモノタナビ

クヤーナ

ケフ

カ

コユラム

アメテ

アサモヨリキヘ

ユクキミガマ

ツチヤマコユラムケ

フゾ

&lt;p

羈

杏蓋唐之誤  
唐人演在紀伊國

炎千人母在八方沾衣乎家者夜良柰囉印  
アブリホスヒトモ  
アリソヘニツキテコグアカラヒトノハラスグレハコニシクアルナリ  
在衣邊著而榜尼杏人演過者戀布在柰利  
アリソヘニツキテコグアカラヒトノハラスグレハコニシクアルナリ

高島作歌二首

近江郡名

不直山城所賦益紀伊寄海邊作歌

川

高島之阿渡河波者驟鞆吾者家思宿加奈之  
タカシマノアトカハナミハサウドモワレハイヘキフヌビニカタシモ

近江

彌

客在者三更刺而照月高島山隱惜毛  
タビアレバヨナカラサンテテルツキノタカシマニカクラクシモ

紀伊國作歌二首

謂入寢也

吾戀妹相佐受玉浦丹衣片敷一鴨將寐  
ワガコフルイモニアハサスメンウラニコロモカタシキトリカモ子ム

鷺坂作歌一首

玉圓開卷惜悵夜矣袖可禮而一鴨將寐  
タマクニヤアケマクヲレキアタラヨコロモテカレヒトリカモ子ム

歲

細比禮乃鷺坂山白營自吾爾尼保波氏妹爾  
タクヒレサギサカヤノシラツジワニニホハテイモニ

比禮羽也猶風功

比禮之比禮又

鷺頭毛喻領巾欣

泉河依歌一首

山城

名木河作歌三首

妹門入出見河乃床奈馬爾三雪遺未冬鴨  
タモカカドイリイツミガハトコナメニミユキノコレリイタダニユカモ

同人世郡那紀

常也並

衣手乃名木之河邊乎春雨吾立沾等家念良  
コロモテナカモテモカハハルサメニワレタチヌルト  
家而思我沾雨牛

余俗云君袖故冠  
谷木以衣手又  
義子加貞通  
長之義歟通  
之說是也  
梅長

神奈川山城國  
久世郡長梅神社

武可。<sup>ムカシ</sup>  
家人使在之春雨乃與夕列杼吾乎沾念者。<sup>スラストオモヘバ</sup>  
焱千人母在八方家人春雨須良乎間使爾爲。<sup>スル</sup>  
巨棕乃入江響奈理射目人乃伏見何田井爾。<sup>ミサセ</sup>  
家也。意也。祭也。

宇治河作歌二首

集也

祭也

意也

鴈渡良之。

金風山吹瀨乃響苗天雲翔鴈相鴨。

獻弓削皇子歌三首

佐宵中等夜者深去良斯鴈音所聞空月渡見。  
妹當茂菊音夕霧來鳴而過去及乏。  
雲隱鴈鳴時秋山黃葉片待時者雖過。

獻舍人皇子歌二首

林手折多武山霧茂鴨細川瀨波驟祁留。  
冬木城春部戀而殖木實成時斤待吾等叙。  
舍人皇子御歌一首。<sup>古事記安閑天皇御陵河内古市高屋村アリト見文他  
紀神名武士と大和城上郡高屋トモレハイシニヤ前ノ多武ノ  
山ヲヨメル哥ノ御和也ト思テニヨフ説アリ御和也ニエヌヨ</sup>  
黑玉夜霧立衣手高屋於霏纏麻天爾。

○鷺坂アシカ作歌一首

ヤニシロノクゼノサギサカカミヨ、リハルハハリツ、アキハナリケリ  
山代久世乃鷺坂自神代春者張乍秋者散來

木葉張浦

○泉河邊作歌一首

ハルクサシタクヒヤマコエクナルカリノツカニハヤドネキスナリ  
春草馬吹山自越來柰流鴈使者宿過柰利

○獻弓削皇子歌一首

ミケムカフミナチヤマノイハホニハナルナミタレカカリノコセル  
御食向南淵山之巖者落波太列可削遺有

大和 佐倉

右柿本朝臣人麻呂之歌集所出

ワキモコガアカモヒツキテウエシタリカリテラサヌムクラリナシ  
吾妹兒之赤裳尼塗而殖之田乎苅將藏奢無

○之濱ハマ

名抄家云倉無濱互書三前懷中抄上總

モツキヤソノレマワコギクレドアノコシマハミレド  
百傳之八十之島迴乎榜雖來粟小島者雖見  
不足可聞

○右二首或云柿本朝臣人麻呂作

○登筑波山詠月一首

アーハラクモナキヨヒニヌバターノヨワタルツキノイラテクヌシモ

天原雲無夕爾烏玉乃宵度月乃入卷悽毛

○幸芳野離宮時歌二首

タキノウヘノミフ子ヤヨリアキツベニキナキワタルハタレヨブコードリ  
瀧上乃三船山從秋津邊來鳴度者誰喚兒鳥

落多藝知流水之磐觸與杼賣類與杼爾月影  
所見

右三首作者未詳

槐本歌一首

樂波之平山風之海吹者釣爲海人之袂變所

見

山上歌一首

白那彌之濱松之木乃乎酬草幾世左右二箇

年薄經盪

右一首或云河島皇子御作歌

春日歌一首

三河之淵瀨物不落左提刺爾衣手湖千兒波

無爾

高市歌一首

足利恩代榜行舟薄高島之足速之水門爾極

爾盪鴨

如名抄文選  
注云  
新舊文師  
說仇大  
其形狹後廣  
前名也

弁

春日藏歌一首

首老

テルツキヲクモナカクニソレカゲニワガフチハテムトーリンラズモ  
照月遠雲莫隱島陰爾吾船將極留不知毛

右一首或本云小辨作也或記姓氏無記

名字或偁名號不偁姓氏然依古記便以

次載凡如此類下皆效焉

元仁歌三首

ウマナベテウナムレコエキナフミツルヨシノカハタイツ  
馬屯而打集越來今日見鶴芳野之川乎何時

將顧

グルシラモクレユクニカモヨシノガハキヨキカハラヲミレドアカナクニ  
辛嘗晚去日鶴吉野川清河原乎雖見不飽君

ヨシスガハカハナミタカミタキノウラヲミズカナリナムコロ

吉野川河浪高見多寸能浦乎不視歟成嘗戀

布真國

布當訓之加志幾亦義通

河亦讀浦

絹歌一首

絹人名

カハツナクムツタノカハノカハヤギノ子モコロミレドアカナクニ  
河蝦鳴六田乃河之川揚乃根毛居侶雖見不

飽君鴨

島足歌一首

ミタホリコシクモシラクヨシノガハオトノサヤイサミルニトモシキ  
欲見來之久毛知久吉野川音清左見二友敷

莫

木

## 麻呂歌一首

古之賢人之遊兼吉野川原雖見不飽鴨

右柿本朝臣人麻呂立之歌集出

## 丹比真人歌一首

難波方鹽干爾出而玉藻立海未通等汝名告

## 左禰

## 和歌一首

朝入爲流入跡乎見座草枕容去人爾妻者不

妾客

刈  
通下脱女字

## 敷

妾何及君妻

川

## 石河卿歌一首

名草目而今夜者寐南從明日波戀鴨行武從

此間別者

史子

## 宇合卿歌三首

曉之夢所見乍梶島乃石越浪乃敷豆志所念

山品之石田乃小野之母蘇原見乍哉公之山

道越良武

木名堪作梳也

神義至城國  
宇治郡山科神社  
二半又久世  
郡石田神社梶島名所抄  
丹後

▲  
麻  
杜

日本紀継承紀  
日近江  
國高島郡水  
尾別掌

山科乃石田社爾布靡越者蓋吾妹爾直相鴨  
擅越當逢昧

○  
譜師歌二首

擅越當逢昧

母山霞棚引左夜深而吾舟將泊等萬里不知  
母又母訓於毛之例仁賢紀曰於毛亦兄也

思乍雖來來不勝而水尾崎真長乃浦乎又顧  
近江欣  
志賀

守

小鞞歌一首

高島之足利湖乎。榜過而益津營浦今者將榜

契云雲抄云三  
重可原而覓也

伊保麻呂歌一首  
ワガタミニカハラノイソヌラニカハカリカモトナクカハツ  
吾疊三重乃河原之磯裏爾如是鴨跡鳴河蝦  
カモトニカハカリカモトナクカハツ  
可物  
カモトニカハカリカモトナクカハツ  
伊勢国三重郡アリ  
言雖勝地猶如此之景也

式部大倭芳野作歌一首

輒之譏

見不飽香聞  
掌衣

兵部川原歌一首

芳野  
大瀧乎過而夏箕爾傍爲而淨河瀨見河明沙

芳野  
大瀧乎過而夏箕爾傍爲而淨河瀨見河明沙

詠上總末珠名娘子一首并短歌

是紀訓端正字無良實

豫  
水長鳥安房爾繼有梓弓床乃珠名者胸別之  
廣吾妹腰細之須輕娘子之其姿之端正爾如  
花咲而立者玉梓乃道行人者已行道者不去  
而不召爾門至奴指並隣之君者預已妻離而  
不乞爾鑑左倍奉入乃皆如是迷有者客豔緣  
而曾妹者多波禮豆有家留

反歌

第一藤原俊民哥亦有田未不知之語

金門爾之人乃來立者夜中母身者田菜不知  
出曾相來

風景記時人歌云美頬能春乃

語

一

カヤウチトノ百レソ

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

而  
云  
工房ノ愚痴大  
源氏ノサニコカト  
リナシニレテモ  
ナスルテマノキ  
ハリシテマヌケ  
製番間之風人世  
ト云心也行取物詔

之官乃内隔之細有殿爾携二人入居而老目  
不爲死不爲而永世爾有家留物乎世間之愚  
人之吾妹兒爾告而語父須臾者家歸而父母  
爾事毛告良比如明日吾者來南登言家禮婆  
妹之荅夕常世邊爾復變來而如今將相跡奈  
良婆此篋開勿勤常曾已良久爾堅目師事乎  
墨吉爾還來而家見跡宅毛見金手里見跡里  
毛見金手恠常所許爾念久從家出而三歲之

管

契末本益  
本末之誤

消

由奈欣言曰  
氣絕也

間爾牆毛無家滅目八跡此营乎開而見手齒  
如來本家者將有登玉篋小披爾白雲之自箱  
出而常世邊棚引去者立走叫袖振反側足受  
利四管頓情清失奴若有之皮毛皴奴黑有之  
髮毛白斑奴由奈由奈波氣左倍絕而後遂壽  
死祁流水江之浦島子之家地見

反歌

常世邊可住物乎銃刀已之心柄於曾也是君  
トコヨヘニスムベキモノヲツルギタキサ十鉛  
カコロカヲソヤヤコノキニ

和名抄 歌合

卷九

見河内大橋獨去娘子歌一首并短歌

〔シナテルヤカタアスハ カハノサニ ノリノオホハシノウエ ハシナキノアカモ  
級照片足羽河之左丹塗大橋之上從紅赤裳  
數十引山藍用摺衣服而直獨伊渡爲兒者若  
草乃夫香有良武檣實之獨歟將宿問卷乃欲  
我妹之家乃不知久〕  
ワキモガイヘノシラナク 此實不正但實成故云歟

。反歌

〔キホハシノボトリニイヘアラバコロイタノヒトリユクコニヤドカサ  
大橋之頭爾家有者心悲久獨去兒爾屋戶借  
申尾〕  
アハレシク

和名抄 歌合  
培王佐伊太利

和名抄 歌合

見武藏小堺沼鴨作歌一首

小堺近在東西而堺西者在小堺西故系

〔サキタノサキノイケニカモゾハシキルオノガミニフリオケル  
前玉之小堺乃沼爾鴨曾翼霧已尾爾零置流  
霜乎掃等爾有斯〕

武藏清音

〔ナラ一井〕

〔郡名〕

〔ナカニムカヘル〕

〔サラニヰ〕

〔タエス〕

〔カヨハムソ〕

〔コニツハ〕

〔モカ〕

〔カ〕

那賀郡曝井歌一首

紀伊阿波伊豆石見各有一那賀郡又武藏常陸謂歧篠前日向各有一那賀

〔ナカニムカヘル〕

〔サラニヰ〕

〔タエス〕

〔カヨハムソ〕

〔コニツハ〕

三栗乃中爾向有曝井之不絕將通彼所爾妻毛我

待意

待

タカニ

アリセ

バ

シラズ

ト

モタ

ツナ

タマ

來名益

春三月諸卿大夫等下難波時歌二首并短歌

白雲之龍田山之瀧上之小鞍嶺爾開乎爲流  
櫻花者山高風之不息者春雨之繼而零者最  
宋枝者落過去祁利下枝爾遺有花者須臾者  
落莫亂草枕容去君之及還來

反歌

神宗天和國龍  
田郡龍田比古龍  
田比今神社神祖  
金田風神祭義  
解謂亦唐源龍  
田二祭也

白雲乃立田山乎夕晚爾打越去者瀧上之櫻  
花者開有者落過祁里含有者可開繼許智期  
智乃花之盛爾雖不見左右君之三行者今西  
應有

反歌

難波經宿明日還來之時歌一首并短歌

難見三事疑

曉

緒

難波經宿明日還來之時歌一首并短歌

岳

壯

島山乎。射徃迴流河副乃。屹邊道從。昨日已曾  
 吾越來牡鹿。一夜耳宿有之柄二。舉上之櫻花  
 者瀧之瀨從落墮而流。君之將見其日左右庭  
 山下之風莫吹登打越而名。二負有杜爾風祭

爲奈

## 友歌

射行相乃坂上之蹈本爾開乎爲流櫻花乎令  
 見兒毛欲得

盛貞

行相坂在龍田山

中牧

檢稅使大伴卿登筑波山時歌一首并短歌  
 衣乎常陸國二並筑波乃山乎欲見君來座登  
 熟爾汗可伎柰氣木根取嘯鳴登嶺上乎君爾  
 令見者男神毛許賜女神毛千羽日給而時登  
 無雲居雨零筑波嶺乎清照言借石國之真保  
 良乎委曲爾示賜者歡登紂之緒解而家如解  
 而曾遊打靡春見麻之從者夏草之茂者雖在  
 今日之樂者

常陸國風記云  
 僕武尊巡狩東  
 東之時幸過新  
 金之縣之新  
 橋井流泉津瀧  
 三觀水洗千御  
 衣袖垂泉而浴  
 千羽祝也草  
 玉りん拂ひ草  
 ハニマハニマハニ

峯

敷之檢算穀多  
 少賦斂損益便  
 也

六帖為紐哥

反歌

チラノヒ  
ニ  
イカバ  
ヲヨバヘツクハ  
子ニ△カレノヒトノ  
キケムソノヒモ

詠霍公鳥一首并短歌

ウカニスノ カヒゴ ノ ナカニ ホト キス ヒトトウ マレテ サガナニ ニニ  
鶯之生郊乃中爾霍公鳥獨所生而已父爾似  
而者不鳴已母爾似而者不鳴字能花乃開有  
野邊從飛翻來鳴令響橘之花乎居令散終日  
雖喧聞吉弊者將爲遐莫去吾屋戶之花橘爾  
スミワタレトリ

仁度鳥

反 歌  
カキキラシノフルヨ  
ホトキスナキテ  
ユクナリアハレ  
ソノトリ

反  
哥

。登筑波山歌一首 短歌  
草枕客之憂舟名草漏事毛有武跡筑波嶺爾  
登而見者尾花落師付之田井爾鴉泣毛寒來  
喧奴新治乃鳥羽能淡海毛秋風爾白浪立奴  
筑波嶺乃吉久乎見者長氣爾念積來之憂者  
ヤミヌ

息沼

師付下付之義  
謂山下欵

反歌

筑波嶺乃須蘇迴乃田井爾秋田苅妹許將遣  
モミギタタナ

黄葉手折奈  
カツナ

支那秘密國明發而耀歌善曰耀哥聖人歌也何晏曰巴子詭歌相牽引連子而跳瑟爾羅耀契愈避急也耀或佛音韻若及

率

登筑波嶺爲耀歌會日作歌一首并短歌  
ワシノスムツクハノヤハモハキツノソノツノウヘニイザナヒ  
鷺住筑波乃山之裳羽服津乃其津乃上爾寧  
テラトメシトコノユキツドヒカカフカ、ヒヌニヒトツニ  
而未通女壯士之往集加賀布耀歌爾他妻爾  
ワレモカヨハムワガツニヒトモコトトコノヤマタウシハクカミノ  
吾毛交年吾妻爾他毛言問此山乎牛掃神之  
スカニヨリイサメヌワザゾケフノミハメクシモミルナコトモ  
從來不禁行事叙今日耳者目串毛勿見事毛  
モトヨシタモトシモナラヌメクシモトヨシタモトシモ

咎莫

知字ワキニ

歌者東俗語曰賀我比

反歌

男神爾雲立登斯具禮零沾通友吾將反哉  
モロノカニニノモタキノボリニグレフリヌレトホルトモワレカヘラメヤ

右件歌者高橋連蟲麻呂歌集中出

諫鳴鹿歌一首并短歌

三諸之神邊山爾立向三垣乃山爾秋芽子之  
ツシマカヒトアサツクヨアケテクシニアシビキノヤヒコト  
妻卷六跡朝月夜明卷鶩視足日木乃山響令  
ヨシヨビタナナクモアヤヒト

動喚立鳴毛

友歌

アスノヨニアハサラメ ヤモアシビキノヤヒコトヨミヨビ  
明日之夕不相有八方足日木之山彦令動呼

立哭毛

右件歌或云柿本朝臣人麻呂作

○沙彌女王歌一首

倉橋之山半高歟夜牢爾出來月之片待難

右一首間人宿補大浦歌中既見但未一句  
相換亦作歌雨主不敢正指因以累載

宇

卷十二年七月

月相人之月  
日里吾思妹會夜  
勢奴賜之夕續宣

零

○七夕歌一首并短歌

久堅乃天漢爾上瀨爾珠橋渡之下湍爾船浮  
居兩零而風不吹登毛風吹而雨不落等物裳  
不令濕不息來益常玉橋渡須

友歌

天漢霧立渡且今日且今日吾待君之船出爲  
等霜

右件歌或云中衛大將藤原北卿宅作也

萬葉集卷十二

房前

## △相聞

振田向宿禰退筑紫國時歌一首

吾妹兒者久志呂爾有柰武左手乃吾奧手爾  
ニキテイナセシトヨウタツルノアラタムヒカリテノワガオクノテニ

纏而去麻師乎

後

拔氣大首任筑紫時娶豐前國娘子紉兒作

豐國乃加波流波吾宅紉兒爾伊都我里座者  
カハルハワキヘ  
トヨクニノカハル春田河郡  
トヨクニノカハル地名

革流波吾家

歌三首

春田河郡

紐

伊登諾加里功奏也伊都久也都久者付  
也娶都我里緒之說恐不穩

度

日

石上振乃旱田乃穗爾波不出心中爾戀流此

如是耳志戀思渡者靈刻命毛吾波惜雲奈師

首

大神大夫任長門守時集三輪河邊宴歌二

吾忘禮米也

於久禮居而吾波也將戀春霞多柰妣久山乎

君之越去者

右二首古集中出

大神大夫任筑紫國時阿倍大夫作歌一首  
於久禮居而吾者哉將戀稻見野乃秋茅子見  
都津去奈武子故爾

獻

以杉比神改音  
神為松也

大神大夫任筑紫國時阿倍大夫作歌一首  
神南備神依板爾爲杉乃念母不過戀之茂爾  
獻舍人皇子歌二首

獻弓削皇子歌一首

垂乳根乃母之命乃言爾有者年緒長憑過武  
也  
言母命則不可永憑今事娘子故永憑也

泊瀨河夕渡來而我妹兒何家門近春二家里

右三首柿本朝臣人麻呂之歌集出

石河大夫遷任上京時播磨娘子贈歌二首

絕等寸笑山之峯上乃櫻花將開春韶者君乎

將思

君無者奈何身將裝飭便有黃楊之小梳毛將

画量胡夾切  
青洽詔  
匱也廉韻

峯

川

春

史記豫讓傳女爲說己者客

# 取跡毛不念

トモハス  
大成

藤井連遷任上京時娘予贈歌一首  
アスヨリ ハワレバ コニハナリ フミナラシ キニ  
從明日者吾波孤悲牟柰名欲山石蹈平之君  
ガコエイナバ  
豊後

我越去者

藤井連和歌一首

契三顧  
蓋礼之誤

命乎志麻勢久可願名欲山石踐平之復亦毛  
コム  
安穩  
可蓋有之誤欵宣訓麻世久安礼加南

來武

常陸  
和名利鹿島郡輕野

鹿島郡苅野橋別大伴卿歌一首并短歌

牡牛乃三宅之酒爾指向鹿島之崎爾挾丹塗  
少  
和名利辨也立成云特牛古語云頭大牛也  
少  
真測云酒恐濁  
之誤溫之意  
印幡郡三宅  
島郡五宅  
少  
下總國海上郡  
印幡郡三宅  
島郡五宅  
少  
長流云麻勢者  
麻勢者  
界也  
遊仙窟安德訓  
麻勢  
少  
説日本紀第二  
文九哥  
安騰毛比賜  
和名利常陸國  
鹿島郡三宅  
上總及下總各  
有海上郡佐  
路則宣為下總  
少

歸者

友歌

海津路乃名木名六時毛渡七六加九多都波  
ウニツ  
即ナノナキナムトキモ  
ワタラナムカクタツナミ

二船出可爲八

右二首高橋連蟲麻呂之歌集中出

○與妻歌一首

ユキコソハハルニキユラメコロサヘキエウセタレヤコト

雪已曾波春日消良米心佐閉消失多列夜言

母不往來

○妻和歌一首

侍ツツカリミニテアレヤハミツクリノナカニヰテコヌマロッタトイハム

松反四臂而有八羽三栗中上不來麻呂等言

八子

子恐毛

契事者中旬上者上旬下句謂非中也  
真測云宜訓奈加須執三火

アラムナホリコ子ハ

恐追之誤

人跡成事者難乎

和久良婆爾成吾身者死毛

トモヒツアリニアヒタニウツセミノヨノコト

契事者中旬上者上旬下句謂非中也  
真測云宜訓奈加須執三火

恐追之誤

右二首柿本朝臣入磨之歌集中出

○贈入唐使歌一首

目録有之

ワダツミノトヅレノカミリタムケバカユクサモノサモフチノ  
海若之何神乎齊祈者歟往方毛來方毛舶之

齋

早兼

右一首渡海年紀未詳

聖武

神龜五年戊辰秋八月歌一首并短歌

ヒトナルコトハカタキラワクラハニナレルワガミハレニモ  
人跡成事者難乎和久良婆爾成吾身者死毛

トキモキミガハニトモヒツアリニアヒタニウツセミノヨノコト

生毛君之隨意常念乍有之間爾虛蟬乃代人

有者大王之御命恐美天離夷治爾登朝鳥之  
朝立爲營羣鳥之群立行者留居而吾者將戀  
奈不見父有者

反歌

三越道之零山乎將越日者留有吾乎懸而  
小竹葉背

欽明紀元年

秋七月丙寅朔

己丑

天平元年己巳冬十二月歌一首并短歌

虛蟬乃世人有者大王之御命恐彌磯城島能

天平元年己巳冬十二月歌一首并短歌

衣有服者柰禮奴每見戀者雖益色二山上復

有山者一可知美冬夜之明毛不得呼五十母

不宿二吾齒曾戀流妹之直香仁

傳下歌直見之謂欣又第四

四平ハ下表

反歌

振山從直見渡京二曾寐不宿戀流遠不有爾  
吾妹兒之結手師紉乎將解八方絕者絕十方

直二相左右二

紐

遠

文選古樂府  
萬石今何在  
上更有山  
案也山復有  
山者之早宜  
訓伊吉二伊傳  
婆

船

右件五首並朝臣金村之歌中出

唐天平五年癸酉遣唐使發遣者四年八月多沾此廣成寺遣唐使者

天平五年癸酉遣唐使船發難波入海之時

親母贈子歌一首并短歌

秋茅子乎妻問鹿許曾一子二子持有跡五十

竹珠祭神具

真洲音蓋  
武之誤

戶鹿兒自物吾獨子之草枕客二師祿者竹珠

乎密貧垂齊戶爾木綿取四手而忌日管吾恩

吾子真好去有欲得

奴者多本奴去古本

校合之時所記也契云奴好之誤此八字無

下同御凡寡只下奴好之誤耳上則幣之義

反歌

奴者無憲選

群

思娘子作歌一首并短歌

言不出

白玉之人乃其名矣中々二辭緒不延不遇日

之數多過者戀日之累行者思遣田時乎白土

肝向心摧而珠手次不懸時無口不息吾戀兒  
矣玉鉤手爾取持而真十鏡直目爾不視者下

檜山下逝水乃上丹不出吾念情安虛歟毛

金彙俗  
鋐字  
鋐時互切音  
鎮圓鐵也

萬葉卷九

白玉賞娘子詞

唐天平五年癸酉遣唐使發遣者四年八月多沾此廣成寺遣唐使者

太禮及天

四子者志太社

真洲音蓋  
武之誤

竹珠祭神具

唐天平五年癸酉遣唐使發遣者四年八月多沾此廣成寺遣唐使者

太禮及天

四子者志太社

通

言々逢則應  
忘而不應也

## 。反歌

垣保城人之橫辭繁香裳不遭日數多月乃經良武

立易月重而雖不遇核不所忘面影思天

右三首田邊福麻呂之歌集出

## 。挽歌

應神帝之子

宮所陵也諸陵式云宇治墓云丘山城宇治郡

宇治若郎子宮所歌一首

妹等許今木乃嶺茂立嬬待木者古人見祁牟

## 。紀伊國作歌四首

黄葉之過去子等携遊磯麻見者悲裳

塩氣立荒磯丹者雖在往水之過去妹之方見

等曾來

古家丹妹等吾見黑玉之久漏牛方乎見佐府

下

玉津島磯之裏末之真名仁文爾保比去名妹

地名砂ノ原

鰐險

右五首柿本朝臣入麻呂之歌集出

坂過足柄板見死人作歌一首

相模

小垣内之麻矣引干妹名根之作服異六白細  
乃紉緒毛不解一重結帶矣三重結誓侍伎爾  
仕奉而今谷裳國爾退而父妣毛妻矣毛將見  
跡思乍往祁牟君者鳥鳴東國能恐耶神之三  
坂爾和靈乃服寒等丹烏玉乃髮者亂而郡問  
跡國矣毛不告家問跡家矣毛不云益荒夫乃

靈在死金

去能進爾此間偃有

津国原郡

過葦屋慶女墓時作歌一首并短歌

古之益荒丁子各競妻問爲祁牟葦屋乃菟名  
日處女乃奧城矣吾立見者永世乃語爾爲乍  
後人偲爾世武等玉梓乃道邊近磐構作冢矣  
天雲乃退部乃限此道矣去人每行因射立嘆  
日感入者啼爾毛哭乍語嗣偲繼來處女等賀  
與城所吾井見者悲裳古恩者

反歌

古乃ノ小竹田丁子乃妻問石蕪會處女乃奥城  
叙此

語繼可良仁文幾許戀布矣直目爾見兼古丁子  
哀弟死テ去作歌一首并短歌

父母賀成乃任爾箸向弟乃命者朝露乃銷易  
杵壽神之共荒競不勝而葦原乃水穂之國爾  
家無哉又還不來遠津國黃泉乃界丹葛都多

乃各各向向天雲乃別石往者闇夜成思迷  
畜所射十六乃意矣痛葦垣之思亂而春鳥能  
啼耳鳴乍味澤相宵晝不云蜻蛚火之心所燎  
管悲悽別焉

反歌

別而裳復毛可遭所念者心亂吾戀目八方  
一云意盡而

蘆檜木笑荒山中爾送置而還良布見者情苦

久鳥日向  
飛鳥味鳥盡  
夜ナリ群絆故  
カクハキヘソ

而信濃哥比等水  
奈乃許等波多由  
等毛波思伊  
奈能伊喪  
乃手兒我許登

三

高麗書

四

崇

右七首田邊福磨之歌集出

詠勝鹿真間娘子歌一首  
并短歌

左和多利能  
兒尔伊由伎  
安比

鷄鳴吾妻乃國爾古昔爾有家留事登至今不  
絶言來勝牡鹿乃真間乃寺兒柰我麻衣爾青

直佐麻生麻也

著齋

クツツ・ダニハカテ ユケドモニキアヤノ ナカニ ツ、メルイハヒコ モ イモ  
覆卒谷不看雖行錦綾之中舟裹有齊兒毛妹  
ニ シカタ ヤ モチヅキノ ミテル オモワニ ハナゴトヨミテ タテレ  
爾將及哉望月之滿有面輪二如花咲而立有

商不善行之

美奐橫生  
譬如花

者夏蟲乃入火之如水門入爾船已具如父歸  
香具禮人乃言時幾時毛不生物乎何爲跡歟  
身乎田名知而浪音乃驟湊之奧津城爾妹之  
卧勢流遠代爾有家類事乎昨日霜將見我其  
登毛所念可聞

文  
歌

カツシ カ ハ ノ 井 ミレバ タチナラシ ミツシクミケ ム テ  
勝杜鹿之真間之井見者立平之水掘家牟手

ノ  
ナ  
シ  
ゾ  
オモホエ  
オモ

1

第一卷  
幕原宮

見菟原處女墓歌一首并短歌

葦屋之菟名負處女之八年兒之片生乃時從  
小故爾髮多久麻庭爾並居家爾毛不所見虛  
木綿乃牢而座在者見而師香跡悒憤時之垣  
廬成人之眺時智奴壯士宇柰比壯士乃廬八  
燎須酒師競相結婚爲家類時者燒大刀乃手  
頽押禰利白檀弓勒取負而入水火爾毛將入  
跡立向競時爾吾妹子之母爾語父倭父手纏

序平半長  
之謂  
拔拔分毛  
髮也  
蘆燒爲云燒  
之語須知而蓋  
用力爭之意

宇

眺

福利檢類

文

賤吾之故太夫之荒爭見者雖生應合有哉完  
串呂黃泉爾將待跡隱沼乃下延置而打嘆妹  
之去者血沼壯士其夜夢見取次寸追去祁禮  
婆後有菟原壯士伊仰天叫於良妣蹠他牙喫  
建怒而如已男爾負而者不有跡懸佩之小釗  
取佩冬蓑蕡都良尋去祁禮婆親族共射歸集  
永代爾操將爲跡遵代爾語將繼常慶女墓中  
爾造置壯士墓此方彼方二造置有故緣聞而

伴踊

穴第呂慕云與之  
日本紀  
之男也言以己  
等故云腰風  
劍者懸腰及肩  
已

將標之誤

喪

雖不知新裳之如毛哭泣鶴鴨

喪也

反歌

葦屋之宇柰比處女之與柳乎往來跡見者哭  
ノミシナカル

耳之所泣

倍心仁之誤

墓上之木枝靡有如聞陳努壯士爾之依倍家  
ツカノウノコノエタビケリキクガコトキ又ヲトコニシヨルベケ  
テヒモ

良信母

右五首高橋連蟲麻呂之歌集中出

萬葉集卷第九  
此一卷本晝素然而自筆也。蒙恩許  
写了。

